

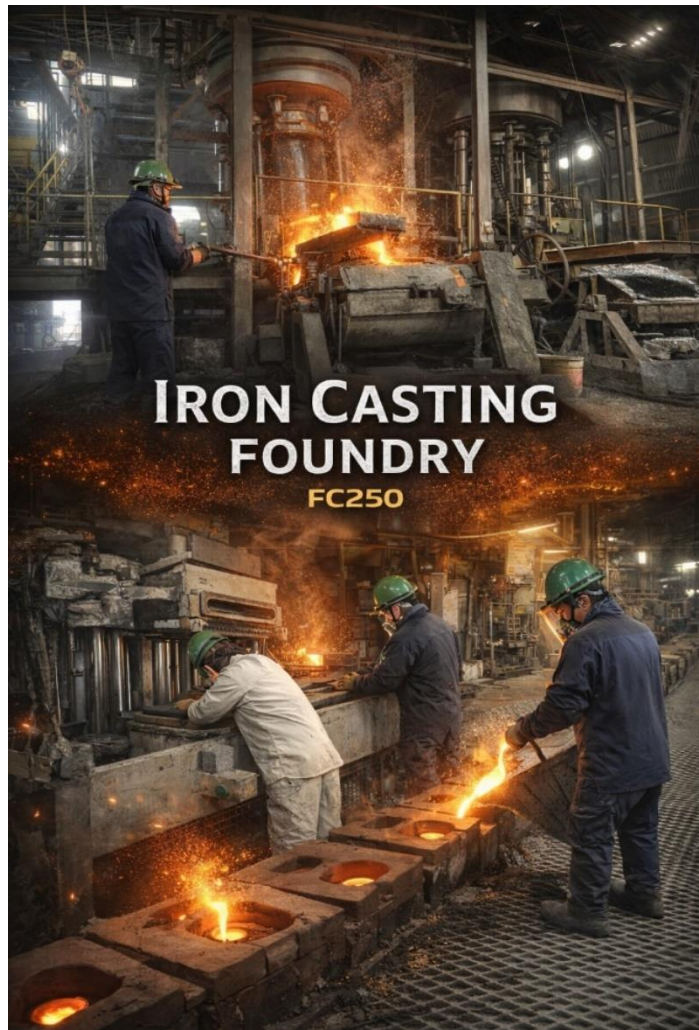


株式会社笠原鋳物工場

環境経営レポート

第64期

(2024年9月1日~2025年8月31日)



発行日 2025年12月16日

目 次

1.	会社概要及び取り組みの対象組織・活動	2
2.	環境経営方針	4
3.	環境経営目標とその実績	5
	3-1 環境経営目標	5
	3-2 環境経営目標の実績	6
4.	主要な環境経営計画の取り組み結果とその評価、及び次年度の取り組み内容	7
	4-1 当年度環境経営計画の取り組み	7
	4-2 当年度の評価	13
	4-3 次年度の取り組み	13
5.	環境関連法規等の順守状況の確認、及び評価の結果並びに違反訴訟等の有無	14
6.	代表者による全体評価と見直し	16
7.	編集後記	17



1. 会社概要及び取り組みの対象組織・活動

(1) 社名及び代表者

- 社名：株式会社笠原鋳物工場
- 代表者：代表取締役 中島 健



(2) 所在地

- 本社（総務・営業）
〒245-0014 神奈川県横浜市泉区中田南 4-14-8
TEL:045-802-1122 FAX:045-804-2618
- 福島工場
〒960-1501 福島県伊達郡川俣町山木屋字上松林山 1-1
TEL:024-563-2111 FAX:024-563-2114

(3) 環境管理責任者及び連絡先

- 環境管理責任者：工場長 佐々木 洋亮
- EA21 事務局：寺島 郁子
- 連絡先：寺島 郁子
TEL 024-563-2111 FAX 024-563-2114

(4) 事業の概要

銑鉄鋳物の製造及び販売

主な製品 自動車用部品、建設車両部品、産業機械部品、船舶用部品、電機用部品
各種プラント用部品、エレベーター用部品 などの銑鉄鋳物

ホームページ URL <http://www.kasahara-imonono.com>

(5) 事業の規模

		2022/9～2023/8 (62期)	2023/9～2024/8 (63期)	2024/9～2025/8 (64期)
活動規模	単位			
主要製品生産量	t	2,030	1,785	1,715
従業員	人	43	44	43
床面積	m ²	3,799	3,799	3,799

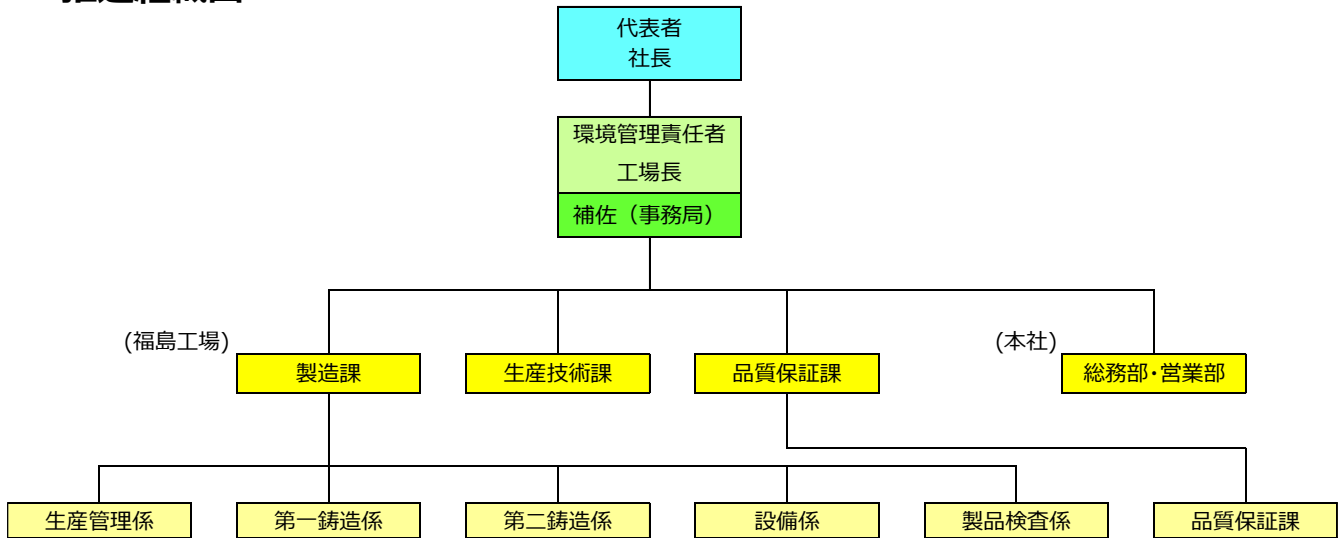
注) 会計年度：9月～8月

(6) 対象組織の活動

全組織・全活動 『 本社、福島工場・鋳鉄鋳物の製造販売 』

(7) 組織図と実施体制

推進組織図



実施体制

役 職	役 割
代表者 (社長)	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境経営方針の制定 3. 環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定 6. MR会議（マネジメントレビュー）の開催 7. 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 (工場長)	1. 環境経営システムの確立、実施及び推進し、実績を社長に報告する 2. 生産において環境経営に大きな影響を与える事項を把握し、必要な改善・対策を行い社長に報告する
部門責任者 (部課長)	1. 各部門の環境経営システムをまとめる 2. 環境経営計画表を作成し、実績フォローを行う
環境事務局 (事務局員)	1. 環境管理責任者補佐 2. 推進員へのE A 2 1環境経営システム構築、運用に関する実施事項連絡 3. 環境関連法規及びその他の規制に関する業務
推進員 (全従業員)	1. 環境経営システム構築及び運用の推進

2. 環境経営方針

以下に株式会社笠原鋳物工場の環境経営方針を示す。

環境経営方針

株式会社笠原鋳物工場は大量のエネルギーを消費し多量の廃棄物を発生させるという鋳物業の業態特性を自覚し、『環境にやさしい鋳造製品造りに努め、社会に貢献する』という企業理念に基づいて、環境保全の課題とその解決策に取り組むことで、地球環境及び地域社会との調和ある事業の発展を目指す。

1. 生産の効率化によって環境負荷を低減させる。
2. 省エネ、省資源、廃棄物の削減と資源の循環使用に努める。
3. 有害化学物質は適正に管理する。
4. 環境経営システムを効率的に運用することにより、環境保全に努め、継続的な改善を図る。
5. 環境に関する法規制や関係者との協定等を順守する。
6. 環境経営の活動は年度毎に目標・計画を定め、品質活動・安全衛生活動と連携して全従業員による持続的な展開を目指す。

2005年 9月1日 制定

2026年 4月1日 改訂

株式会社笠原鋳物工場

代表取締役社長 中島 健

3. 環境経営目標とその実績

3-1 環境経営目標

弊社の事業活動は鋳鉄鋳物の製造であり、主な環境負荷として二酸化炭素排出量、総廃棄物排出量、水使用量及び化学物質使用量が該当します。

※64期環境経営目標は、63期の実績値を基準（表①）

※中期環境経営目標は、62期の実績値を基準、2023年9月に設定のもの（表②）

① 環境経営目標（64期） 東北電力2021年調整後排出係数 0.496kg-CO₂/kWhを使用

取組項目		目標値	
		基準値 (63期の実績)	2024/9～2025/8 64期 目標
CO ₂ 排出量 削減	購入電力	384.4 kg-CO ₂ /t	0.25% 削減 383.4 kg-CO ₂ /t
	コークス	1,442.7 kg-CO ₂ /t	0.25% 削減 1,439.1 kg-CO ₂ /t
総廃棄物量 削減	一般廃棄物 (総量目標)	4,150 kg	注2
	産業廃棄物	650.0 kg/t	0.15% 削減 649.0 kg/t
化学物質使用量		9,491.1 kg	注3
排水量削減		76,809.0 m ³	注4
不良率削減目標値		4.69 %	0.3ポイント 削減 4.39 %
コークス比改善		19.48%	0.3ポイント 削減 19.18 %

②中期環境経営目標（63期、64期、65期） 東北電力2021年調整後排出係数 0.496kg-CO₂/kWhを使用

取組項目		目標値			
		基準値	2023/9～2024/8 63期 目標	2024/9～2025/8 64期 目標	2025/9～2026/8 65期 目標
CO ₂ 排出量 削減	購入電力	357.0 kg-CO ₂ /t (62期実績値)	0.20% 削減 356.3 kg-CO ₂ /t	0.25% 削減 356.1 kg-CO ₂ /t	0.30% 削減 355.9 kg-CO ₂ /t
	コークス	1473.5 kg-CO ₂ /t (62期実績値)	0.20% 削減 1470.6 kg-CO ₂ /t	0.25% 削減 1469.8 kg-CO ₂ /t	0.30% 削減 1469.1 kg-CO ₂ /t
総廃棄物量 削減	一般廃棄物 (総量目標)	2,380 kg (62期実績値)	注2	注2	注2
	産業廃棄物	522.7 kg/t (62期実績値)	0.10% 削減 522.2 kg/t	0.15% 削減 521.9 kg/t	0.20% 削減 521.7 kg/t
化学物質使用量		9,298.7 kg (60～62期平均値)	注3	注3	注3
排水量削減		76,809.0 m ³	注4	注4	注4
不良率削減目標値		4.40% (62期実績値)	4.10 % (0.3ポイント減)	—	—

注1) 環境経営目標の設定は、鋳鉄鋳物の生産量(t)当たりの目標値としました（一般廃棄物を除く）。

注2) 60期より一般廃棄物は削減、分別の習慣定着を踏まえ、数値目標は設けず『習慣の維持』を目標とします。但し、排出時計量を適正に行い増減に異常があった時は原因を解明し必要に応じて対策して

います。

注3) 当社で使用する化学物質は製品に客先仕様書によって使用量を規定されているもので、数値による削減目標が立てられないため『化学物質の適正管理の確認』を環境経営目標とします。

注4) 工場の排水量は、キュポラ冷却水として必要量を確保する必要があります。山の湧水を利用し汚染無く全量が河川に放流される為量的評価はせず『水路等の適正管理』を環境経営目標とします。

3-2 環境経営目標の実績

環境負荷の当年度実績と目標に対する達成の評価

(生産量変動の影響を除くため、項目により総量その他、生産トン当たりの数字を示しています)

項目	単位	64期目標値	64期実績値	64期目標達成の◎×
電力 CO ₂ 生産ト当たり	kg-CO ₂ /t	383.4	377.8	◎
コークス CO ₂ 生産ト当たり	kg-CO ₂ /t	1,439.1	1,367.0	◎
CO ₂ 総排出量 (灯油等含む)	kg-CO ₂	—	3,139,540.2	—
総廃棄物量	一般廃棄物	kg (総)	6,000.0	—
	産業廃棄物	kg/t	649.0	◎
不良率削減 (前年比)	%	0.30ポイント減 4.39%	0.30ポイント減 4.39%	◎
コークス比改善	%	0.30ポイント減 19.18%	0.24ポイント増 19.42%	×
製品生産量	t	—	1,714.5	—

※電力排出係数 東北電力2021年調整後排出係数 0.496kg-CO₂/kWhを使用

※化学物質は『適正管理の確認』を環境経営目標とし、64期 適正管理を実施 (前頁 注3 参照)

※排水量は『水路等の適正管理』を環境経営目標とし、64期 適正維持管理を実施 (前頁 注4 参照)



5つの目標を掲げ取り組んだ64期ですが、4つの項目において目標達成できました！特に電力、コークスの二酸化炭素排出量は前期より大幅に減少できました。



4. 主要な環境経営計画の取り組み結果とその評価、及び次年度の取り組み内容

4-1 当年度環境経営計画の取り組み

(1) 二酸化炭素排出量の削減

①電力CO₂の削減 (目標達成◎)



継続的に下記の取り組みを実施しています。

- a) 省エネ効果の高い新型造型機の優先稼働
- b) デマンドシステム活用による「工場全体のピーク電力をセーブする」活動
- c) 設備不使用時の「こまめな電源OFF」の習慣化活動
- d) 工場全体の空圧設備の稼働状況に応じて「必要最小限の台数のコンプレッサーのみ運転することの習慣化活動
- e) 「全体照明」から「必要な箇所の個別照明」への習慣化活動
- f) 冷暖房設定温度の「抑制活動」
- g) 太陽光発電を購入電力と連系させ、社内で使用⇒節電効果の把握と社員への情報提供

今年度の発電実績は以下のとおり

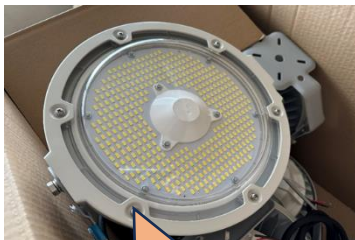
(年間発電量 9,816 kWh は消費電力量の 0.75 %)

本年度は新たに h)工場内照明をLED照明に更新 を実施しました。

工場内照明のLED化

63期の電力CO₂削減は目標未達。

当社の工場内は水銀灯を使用していました。LED照明への更新は当期64期中に予定されてはいましたが、63期の結果を是正すべく更新を急ぎ前倒して実施しました。



Before
※水銀灯



第二鑄造係の様子

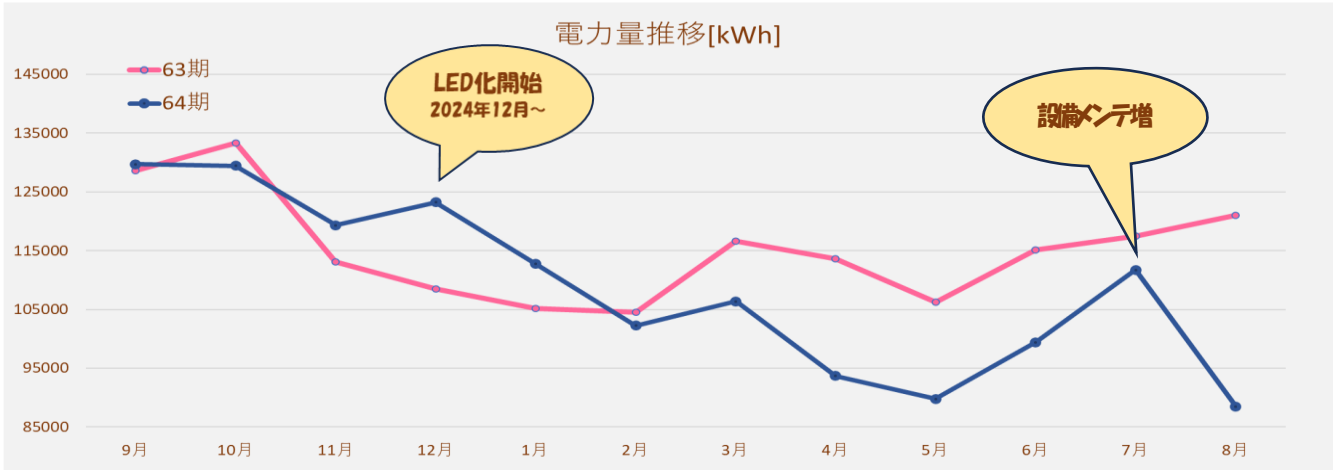
After
※LED照明



明るーい!



2種類の照明
64個の水銀灯のうち
56個をLED照明へ



63期	128,630	133,330	113,047	108,529	105,135	104,511	116,642	113,637	106,198	115,096	117,441	120,999
64期	129,694	129,472	119,337	123,240	112,746	102,232	106,363	93,683	89,784	99,431	111,734	88,521

LED照明へ変更した2024年12月以降、使用電力量が減少しているのが分かります。効果は◎で、64期電力CO₂排出量は目標383.4 kg-CO₂/tに対し377.8 kg-CO₂/tとなり**1.50%削減**の実績で目標達成できました！
期の途中からの取組みでしたが十分な効果を確認できました。

※64期7月に増加しているのは設備メンテを多数実施したことによる

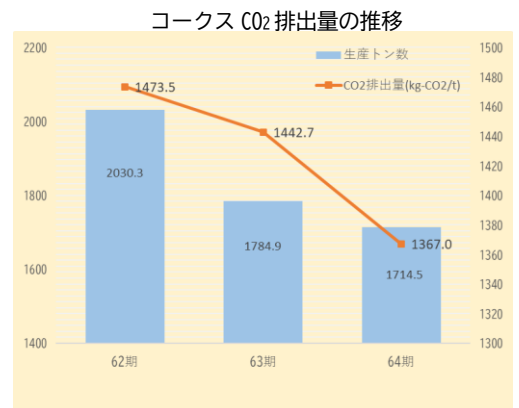


② コークスCO₂排出量の削減 (目標達成◎)



鋳物製造のエネルギー源であるコークスから排出されるCO₂の削減には、キュポラの効率的で安定的な操業が基本となります。その為に以下の取組みを継続的に行っています。

- キュポラの集約的操業
→ 溶解トン当たりのコークス量の削減
- 鋳造方案改善による品質の向上と安定
→ 不良率の低減
- 鋳造方案改善による必要溶解量の削減
→ 製品歩留りの向上
- 設備トラブルによる操業中断の撲滅
→ 生産効率の安定維持
- コークスの種類一本化 → 溶解時の燃焼効率の向上



63期から取組みを開始した e) コークス種類一本化 ですが、今期は期初から順調に実施され、CO₂排出量の削減に大きく寄与しています。

63期 1,442.7 kg-CO₂/t
64期 1,367.0 kg-CO₂/t (前期比 ▲75.7 kg-CO₂/t)

CO₂排出量は目標1,439.1 kg-CO₂/tに対し**5.00%削減**の実績で目標達成しました！



(2) 総廃棄物排出量の削減と適正管理

剪定中



①一般廃棄物

一般廃棄物については、削減・分別の習慣定着を踏まえ、60期より削減の数値目標は設けず『習慣の維持』を経営目標とし、大幅（25.0%以上）な増減があった場合は検証を実施しています。64期は下記の『習慣の維持』の取り組みを継続して実施しました。

- a) コピー用紙使用量の削減 ~ 書類電子化、裏紙利用、両面コピー
- b) リサイクルとリユースへの取り組み

* 分別の徹底 → 焼却廃棄物（木屑、ウエス、革手等）と再生可能な資源物（古紙、ビン、飲料缶等）を籠で分けて排出。

* 『トイレトパーパーの交換』は古紙価格低迷で交換率が下がるも引続き活用。

* 『廃棄するダンボール類を汚さない活動』の推進。（汚れたダンボールは再生出来ない）

* 使用済み封筒の活用。

以上については従業員の間で習慣化されています。



他に工場敷地内の樹木の伐採、剪定によりできた木くずなどの適正処理をした結果、前期実績 2,380kg に対し、今期 6,000kg を計上しました。木くずなどの量はその年度によりばらつきが発生すると考えられますが、今後も適正処理に努めてまいります。

②産業廃棄物 **（目標達成◎）**



a) 使用量の削減

集約的な溶解をすることでキュポラ操業日を減らし、鉋さい（産廃）の元となる炉材（レンガ・モルタル等）の使用量を減らします。

⇒ 設備トラブルによる操業停止時間が63期に比べ大幅に減少し、安定した溶解につながり鉋さいも減少。また、生産の無い日は工場内の砂搬送ベルトコンベアのメンテナンス強化でこぼれ砂を削減しました。

b) 再生利用のための分別

再生利用を可能にするため、分別・保管を適切に行います。

⇒ 鋳物砂、鉋さいは再資源化されセメント材料等に再生利用（リサイクル）。

⇒ 使用済みフレコンバッグは再利用（リユース）と廃棄（廃プラ）に適正分別。



使用済みパレットのリユースが今後の課題です

63期 650.0 kg/t

64期 635.5 kg/t (前期比 ▲14.5 kg/t)

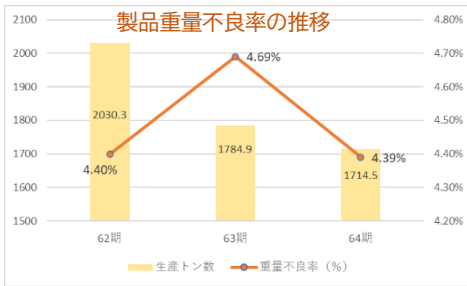
産廃排出量は目標 649.0 kg/t に対し **2.10% 削減**の実績で目標達成しました！



(3) 製品重量不良率の削減 (目標達成◎)



- a) 品質の現状を把握し全社的に周知。
(品質会議～部門長、月1回)
- b) 不良の解析をし、対策に結び付ける。
(不良対策会議～関係部署、随時)
- c) 技能・品質管理の向上のため、社内講習を実施。



ライン設備の老朽化に伴う不良の増加、補用部品や小ロットによる生産不良の発生など課題がたくさんありましたが、従業員一同力を合わせて不良撲滅に取り組みました。来期はライン設備の補修を予定していますので、不良減少が見込まれます。さらなる不良削減に努めていきます。

63期 重量不良率 4.69%
 64期 重量不良率 4.39% (前期比 ▲0.3%)
 不良率削減目標 4.39%以下に対し 4.39% (!) の実績で目標達成しました!



(4) コークス比改善 (目標未達×)



64期の取り組みにおいて唯一の目標未達はコークス比改善でした。63期から実施したコークス種類の一本化で、コークス消費量は9.0%削減することができました。

コークス比(%) = (使用コークス量合計 ÷ 溶解材料重量) × 100 で算出します。

63期コークス比実績 19.48% の0.3ポイント減である 19.18% を目標に掲げましたが、この0.3ポイント減少という設定は見誤った数字であることが分かりました。特に今期は7月～9月の夏季期間において気温上昇が進み、コークスの投入量にばらつきが発生したのです。実績は19.42%と前期より0.06%改善してはいるのですが、目標は見直しの必要がありそうです。気候変動の影響を受けることを考慮し、来期65期の目標は社内で再度協議します。





63期 コークス比 19.48%
 64期 コークス比 19.42% (前期比 ▲0.06%)
 コークス比目標 19.18%以下に対し 19.42% の実績となり目標未達でした。



(5) SDGsへの取り組み

17目標のうち当社の優先課題とした4目標、6ターゲットに向けて今年度は以下の活動に努めました。

目標・ターゲット	笠原鋳物工場の姿勢と今年度の取組み
 <p>6 安全な水とトイレ を世界中に</p> <p>6.3 6.6</p>	<p>キュポラの稼働に冷却水は重要な資源です。水源地～水路を適正に維持し継続的利用に努めます。工場が水田地帯に立地することを認識し放流水の水質管理を適正に行います。</p> <p>(今年度の取組み) 水源地の清掃、水路の点検維持、放流水路の点検と沈殿砂の定期回収。</p>
 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> <p>7.1 7.3</p>	<p>キュポラ燃料のコークスは大量のCO₂を排出します。新しいエネルギーなど無理！と言い放ってはいけません。理想論としてでもCO₂削減の具体的な方向、目標を持つ努力をします。</p> <p>(今年度の取組み) コークス種類一本化と配合の見直しにより、使用量の削減に取組みCO₂削減ができました。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>12.5</p>	<p>鋳滓、廃鋳物砂は“資源“です → セメント材料にリサイクル。古紙リサイクル率の向上(紙は汚すな！)埋め立てゴミの最少化。視点を変え新たな3Rを見つけること。</p> <p>(今年度の取組み) 鋳滓、廃砂を埋め立て処分すること無く、全量をセメント材料にリサイクルしました。段ボールは濡らさない、汚さない → 古紙リサイクル。 フレコンバックのリユース(再使用)リサイクルをし、ごみの分別に使用しました。</p>
 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> <p>13.3</p>	<p>過去の大型台風の被害経験から、気候変動を“他人事“とせずCO₂多量排出事業者の立場を認識し、目標7に共通する姿勢を構築し、全員で共有します。</p> <p>(今年度の取組み) ～「品質活動は環境活動」でもある～効率向上、品質向上は環境負荷を低減させます ～山火事の防止～当社から災害を発生させない →放水作業を徹底しました。</p>

(5) 美化活動 その他

- 1) 修理・リユースを徹底し、廃棄物増加につながる無駄な購入を避けます。
- 2) グリーン購入の姿勢を維持し、設備・工具・消耗品等の購入に当たっては「環境配慮型の製品」を優先的に選定します。
- 3) 環境の改善に結び付く改善提案活動を活性化。
- 4) 本社、福島工場の構内美化と地域への貢献。
 - 工場内清掃(年2回の大清掃)と構内側溝の清掃(年2回)
 - 構内緑化にあたっては「生物多様性」に配慮し除草剤、農薬は不使用
 - 使用済切手を収集して「障がい者支援施設」に寄贈(毎月)



～節水洗剤の発見～

社内の洗濯で使用する洗剤ですが、たまたま購入したものを使用したところ泡切れが良い！従来すすぎ4、5回のところほぼ2回ですすぎが終わります。ナイス節水！価格も普通。節水型洗剤であればエコマークは無くてもグリーン購買の趣旨に寄与する製品だと思います。



～環境美化活動～

年2回実施、泥吸上げの様子。近隣の敷地へ砂を流出させないように従業員みんなでしっかり吸上げします。実施後のピカピカのマスを見ると、充実感がありますね。帰宅したあとのビールが美味しいのです。
by 事務局

トピックス



途中経過



～工場屋根の改修工事を実施しました～

以前はモニター屋根がありましたが、令和3年の地震で損傷したためそれを取り払い切妻屋根と変更しました。しかし、切妻屋根は高熱の工場内の空気を逃がしにくいいため、夏は非常に暑く従業員の熱中症対策のエアコンや扇風機の稼働が最大限となり電力消費が増大していたのです。対策として、横壁を抜き、回転窓を取り付けました。東側に7カ所、西側に5カ所、また屋根の頭頂にもはめ込み窓を取り付けました。その結果風が通り建屋内の気温が数度下がったので冷房効果が高まりました。工事したのは工場長を始め高所作業のできる従業員。全部社内で実施した工事です。コレ、自慢できますよね？！



完成☆

4-2 当年度の評価

- (1) ガイドライン2017年版を元にISO9001と連携し納期、品質のトラブルを避け“経営視点”での活動に努めました。
 - 顧客からの品質クレームは前年度から減少しており、また環境問題についてもクレームの発生はゼロ。ステークホルダーに対しての問題なし。
- (2) 生産トン当たりのCO₂排出量は、電力、コークスとも削減目標を達成できました。電力は昨年比1.7%減少、コークスは昨年比5.0%減少と大幅に更新しました。
 - 工場内の水銀灯をLED照明へ変更したことで設備停止時間減少がCO₂排出量削減に貢献。
 - コークスは種類一本化と電力と同様設備停止時間減少がCO₂削減に貢献しました。
 - コークス比については削減目標を達成しなかったものの内容は良好であり次年度は数値の見直しを検討します。
- (3) 生産トン当たりの産廃量は削減目標を達成でき非常に良好。
 - 管理面が充実し、安定した溶解ができ、こぼれ砂も削減できました。
- (4) 横浜本社でもエネルギー使用量、廃棄物の削減に取り組み基準年比で良好でした。
- (5) 全従業員が、コークス削減と節電に一丸となって取り組みました。

4-3 次年度の取り組み

- (1) 電力CO₂排出量の低減について、改善提案を積極的に取り入れ続けていきます。
- (2) コークス, 電力, 炉材は笠原鋳物にとって「三大環境負荷」と認識し、その節約を図ります。
- (3) 設備トラブルの頻発は生産効率を下げエネルギーロスの原因となります
突発不良はメーカー修理に頼らず自社で対応できるよう取り組んでいきます。
- (4) 新規部品は各ステップで技術的・品質的な検証を徹底し、量産移行後の初期トラブルを防止。(トラブルは“課題”であり、これを解決することが顧客獲得の“チャンス”です)
- (5) エコアクション21活動を通してSDGsに紐づけした目標を持つこと。
- (6) 全従業員参加による改善活動の活性化に努めます。
- (7) 福島工場、横浜本社の建屋内、構内の整備・美化をさらに進めます。

本社災害訓練

2024年9月10日実施

全員で掲示物、避難器具、ブレーカー、ガス栓を点検し避難時の行動を確認。
また、防災用品の確認、地震初期の待避行動を実際に行うことで手順書の有効性を確認できました。



ブレーカーの遮断

地震の初期行動



防災用品の確認
在庫補充など



5. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

○当社に適用される主な環境法規

廃棄物の処理及び清掃に関する法律
工場立地法
PRTR法
毒物及び劇物取締法
労働安全衛生法
じん肺法
浄化槽法
フロン排出規制法
消防法
省エネ法
フォークリフト/オフロード法
原子力災害対策特別措置法
福島県化学物質適正管理指針
福島県産業廃棄物処理適正化条例
福島県生活環境保全条例
川俣町廃棄物の処理及び清掃に関する条例
横浜市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例

2025年9月5日 総務部にて確認の結果、福島工場・横浜本社とも環境関連法規等は順守され、違反はありません。 また、関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。

労働衛生教育

～労働衛生コンサルタントによる労働衛生教育の実施～

本年度より福島工場全従業員に対し、社内労働衛生教育の受講を義務付けました。月1回、テキストをもとに座学を学びます。

この教育を社内ですることにより、外部での特別教育受講と同様の知識を得ることができます。

この教育は65期も引き続き実施されています。



64期実施 教育内容

- ①騒音による健康障害防止のために
- ②化学物質による健康障害防止のために



福島工場全従業員を対象にした 緊急事態訓練

2025年8月8日実施



工場長が講師となり、事務所で主に勤務している女性従業員に対し消火器による消火方法の訓練を実施。使い方を各自マスターできました。



停電からの電源復旧、ポンプ始動作業の訓練を実施。
・工場長の指導により井戸水のポンプの復旧方法を確認。
・冷却水の汲み上げポンプの始動。
・第二鋳造係による、キュポラ湯抜き処理の確認。
この訓練で緊急事態への手順書の有効性を確認できました。

ふいごまつり

2024年11月7日実施



ふいご祭りとは、火を扱う職人が、道具への感謝と火の安全・商売繁盛を祈願する伝統行事です。当社も毎年かさず実施します。

6. 代表者による全体評価と見直し

取組項目	評価
外部審査の結果	◎高評価で更新できお疲れ様でした。来年の中間審査もよろしく お願いします。
環境関連法規等の達成状況	◎問題なし
環境目標の達成状況	・電力 CO ₂ 削減達成◎ 電力低減のアイデア、改善提案を模索して来 期も続けていきたい。 ・産廃・一廃については活動の成果が数字になっている。管理面がき ちんとされていて非常に良好◎ ・不良率良好◎ ・コークス比結果×だが、内容良好◎
環境活動計画の実施状況	◎活動内容良好
環境負荷の自己チェックシ ート結果	◎問題なし
外部からの苦情等の受付情 報及び是正処置・予防処置	◎苦情なし ◎是正処置・予防処置問題なし 作業は安全最優先に、労災を起こさないように実施をお願いします
環境に関する関連法規制 動向	◎引き続き安全衛生について改善すること。
取引先からのグリーン調達 情報	実績なし
緊急事態訓練	◎内容良好 ポンプの復旧など、作業指示・実行する人員を増やして いってください。技術継承を確実に行うように。
63期アウトプットに対する フォローアップ	◎活動内容が充実しており、全従業員で取り組んでいることが確認 できた

代 表 者 に よ る ア ウ ト プ ッ ト	環境経営方針の変更	変更の必要なし
	環境経営目標及び 環境経営計画の変更	コークス比については目標設定が現実的ではなかったよう です。使用量の変動など今期を参考に、65期は達成可能な数値 を検討しましょう。
	実施体制の変更	変更の必要なし
	環境への取組みにおいて 発展強化させる点など	使用エネルギー(電力・コークス)の削減、産廃及び一廃の削 減、に大きな進展があった1年でした。更なる改善に向けて 挑戦していきましょう。
	環境への取組みにおいて 改善および変更すべき点 など	CO ₂ 排出削減及び廃棄物削減ともに生産効率の向上により改 善できる関連性から、不良率低減は鋳物業にとって永遠の課 題となります。原因を洗い出し、一つ一つ改善を行い、(でき れば予防実施)取り組んでいきましょう。

2025年10月24日 代表取締役 中島 健

2025年10月24日開催の環境会議（マネジメントレビュー）に基づく決定事項です。

この指示を受け、是正として65期環境目標設定の見直しを実施します。

2025年10月24日 環境管理責任者 佐々木 洋亮

7. 編集後記

当社の環境経営レポート第64期をご覧いただきありがとうございました。64期は良い結果を残すことができ安心しておりますが、65期もこの流れで環境活動に従業員一同しっかり取り組んで参ります。

ホームページには当社で製造している鋳物の画像なども掲載しておりますので興味を持たれた方はぜひご覧いただけたらと存じます。

事務局



新年ご祈禱
社長と宮司様



全体朝礼



強風時
裏山へ放水

